■尾崎放哉　　俳人。自由律俳句の代表的存在となるも，社会も家庭も放棄して放浪を始め，大量の傑作遺して早世。
おざきほうさい
内閣発足・・1885＝　　鳥取の立川町で，鳥取市法務官となった旧鳥取藩士の長男に生まれる。本名尾崎秀雄。

帝国憲法発布1889＝ 4歳：

幼い頃から，自分の周りを屏風で囲んで読書に浸るなど，孤独を好み，

日清戦争始・1894＝ **9歳：**

Bushidou・・1899＝14歳：県立第一中学校時代，**_俳句や短歌を作り始め，**
ﾋﾟｱﾉ国産化・1900＝15歳：**_学友会誌に発表。**

教科書疑獄・1902＝17歳：上京して，第一高等学校に入学，
日比谷公園・1903**＝18歳：_先輩荻原井泉水と出会う。**

日露戦争終・1905＝20歳：東京帝大法学部に入学，
満鉄発足・・1906＝21歳：**_{ホトトギス}や{国民新聞}に投稿して掲載される。従妹に惚れるも親族に反対され失恋。宗教や哲学にのめり込み，泥酔を繰り返すようになる。**
韓国反日暴動1907＝22歳：**_号を放哉に改める。**
伊藤博文暗殺1909＝24歳：卒業。通信社で働き始めるも直ぐに退職，鎌倉の禅寺に行く。

大逆事件判決1911＝26歳：東洋生命保険に入社。郷里の遠縁の娘と結婚。この年，**_荻原井泉水が句誌{層雲}を創刊，**
明治天皇没・1912**＝27歳：**
当初は順調に出世するが，

21ヶ条要求・1915＝30歳：***{層雲}に参加し，作品が掲載される。2年前に{層雲}に登場した種田山頭火とともに，心のリズムのままに書く自由律俳句の代表的俳人となって行く。以後，井泉水と親交し，生涯に渡って敬慕。**

人間関係のストレスに疲れ切り，酒癖で失敗も繰り返したため，

原敬首相暗殺1921**＝36歳：**平社員に降格され，退職。
水平社結成・1922＝37歳：朝鮮火災海上保険支配人に採用されるも，
関東大震災・1923＝38歳：禁酒誓約破ったためか，免職。満州で再起を試みるも，前年発病した肋膜炎が悪化して入院。帰国するも，妻から離縁され，ついに***全てを放棄し，京都の一灯園に入所，托鉢・奉仕・読経の日々を送る。**
護憲三派圧勝1924＝39歳：***冬の寒さに肉体的限界を感じ，知恩院に移るが，来訪した井泉水に再会した喜びで泥酔し，直ちに追い出され，知人の紹介で，神戸の須磨寺に身を置く。以後，大量の傑作を生んで行く。**
治安維持法・1925＝40歳：**_寺の内紛に嫌気して，福井県小浜の常高寺に移るも，寺が破産，関東大震災で妻子を失っていた井泉水の下に身を寄せ，海辺で死にたいと訴えて紹介して貰った小豆島の南郷庵に落ち着くが，**
円本時代始・1926＝41歳：***肺結核で没した。辞世句"春の山のうしろから煙が出だした"。師井泉水が放哉の句集「大空」を刊行。**

平凡社百科事典，山田風太郎「人間臨終図巻」，インターネットWikipediaほか，